

令和8年度 第1回 こども部会 会議録

【日時】 令和8年5月21日(木) 10:00~11:30 美馬市役所 北館1階101・102

【参加者】 徳島県西部こども女性相談センター、発達障がい者総合支援センターアイリス、池田学園池田支援学校美馬分校、穴吹高等学校、美馬市こども家庭センター、美馬市教育委員会 つるぎ町福祉課、つるぎ町保健センター、つるぎ町教育委員会、美馬保健所、ピース児童デイワンハート穴吹、こども発達支援事業所イノセント、障害者支援センター小星園 障害者支援センターかしがおか、相談支援センターイノセント

(計 22 名)

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1. 協議会の仕組み、こども部会の経緯、地域課題、今年度のこども部会実施計画について

【意見、質疑応答】

(1)小児リハ(言語訓練)について

- ・4.5歳児を対象としたS-JMAP検査を受けた後に言語訓練を希望するケースがあるが、小児リハを受けれる病院の定員に空きが少ない。就学前が一つの区切りとなるため、小学校入学後は放課後等デイサービスを利用しながら、言語聴覚士による訓練を継続しているケースもある。
- ・こども版障がい福祉のしおりに言語訓練が受けられる病院の情報を掲載している。

(2)医療的ケアについて

- ・重症心身障がい児が利用できる通所支援事業所は西部では、多機能型通所事業所「ひまわり」。医療的ケアの提供は痰吸引、在宅酸素療法、経管栄養など。現在の利用児童は1名で新規の受け入れについては、今後の調整次第で2名の受け入れが可能。美馬保健所では小児慢性特定疾患の登録者は5名程度。1型糖尿病の注射については、自己管理(自己注射)を基本としているが、年齢が低いこどもや自己管理が難しい場合は家族や訪問看護が学校に訪問することもある。

(3)一般高校に在籍している支援が必要な生徒の現状や進路等について

- ・穴吹高等学校では不登校の生徒も多く、1週間未満の登校の生徒がすでに数名いる。進路選択の際、作業能力の問題で進路決定が難しい生徒がいたり、就職ができてても課題を抱えているケースがある。療育手帳を所持し、障害者雇用枠にて就職した生徒は1名。

(4)不登校の生徒への支援について

- ・療育手帳の所持、または障害児通所給付費の支給要件(支援の必要性)が認められる場合は、福祉サービスの利用対象となる。不登校の状態であっても、放課後等デイサービスなどの通所支援サービスを利用することは可能。ただ、市町村により対応に違いがあったり、通所支援事業所の受け入れ状況等もあるため、事前の確認や相談が必要。
- ・学校に在籍していない場合、原則として放課後等デイサービスの利用は不可となっているため、高校中退後に社会的な繋がりを失い、孤立化するリスクがある。美馬市の適応指導教室は送迎等の課題から利用のハードルが高くなっている現状がある。

- ・不登校の小学生への支援が十分に行き届いていないことに加え、保護者自身も何らかの障害や特性を抱えている家庭への支援が難しい。東みよし町では、不登校の本人や保護者の居場所づくり、子育て相談、情報提供、学習サポートまでを行っている「カフェ・ブルースカイ」が活動している。
- ・課題を抱える保護者に対して学校からスクールカウンセラーへの相談を勧めても、相談に繋がらないケースがほとんど。発達障がい者総合支援センターアイリスでは、学校の教員向けに専門的なアドバイスやサポートを行う機関コンサルテーションを行っている。こども女性相談センターには、不登校に関する相談が家族から直接寄せられている。その一方で、不登校を背景とした親子関係の悪化により、虐待通告へ至るケースも発生している。一度の相談対応を行っても、その後の継続的な支援に繋がらなければ、一つの専門機関だけで世帯の複合的課題をすべて解決することには限界がある。
- ・保健所では不登校から成人期のひきこもり状態へと移行し、精神的な不安定さから家族への大声や暴力に発展して家族から相談を受けるケースがある。家族に対しては、医療機関への受診調整や保健所が実施する精神科医による相談事業の情報提供を行うほか状況に応じて医師を伴う家庭訪問も実施している。相談は成人だけでなく、子どもも対象としている。
- ・支援が必要な家庭の中には、すでに市町村の家庭支援担当者が介入しているケースもあり、関係機関との情報共有や円滑な連携体制を構築しやすい状況にある。つるぎ町では今年度より、福祉課につるぎ町こども家庭センターが設置され、保健センターとも情報共有や連携を図っている。
- ・不登校が長期化しているケースにおいて、本人だけでなく保護者へのアプローチが難航している点が課題として挙げられた。不登校の児童や生徒の居場所として、鳴門教育大学の敷地内に設置予定の「学びの多様化学校(令和9年4月開校予定)」や県西部では「よらん de やまき(三好市池田町)」、「カフェブルースカイ(東みよし町加茂)」フリースクール、放課後等デイサービスなどの情報提供があった。

(5) 今年度のこども部会実施計画については、別添資料にて確認

2. こども版障がい福祉のしおりについて

○訂正箇所について確認。訂正後、美馬市・つるぎ町障がい者自立支援協議会 HP に掲載。

3. 障害児通所支援事業所について

(1) 事業所の空き状況や具体的な支援内容、家族支援の課題などについて

○こども発達支援事業所イノセント

<放課後等デイサービス>

- ・空き状況：現在空きがなく、新規受け入れは困難な状況。希望者には待機を依頼。見学は随時受付。契約者数は18名。平日利用は1日あたり11~15名程度、土曜日は10名程度。
- ・支援の課題：不登校の児童に対し、保護者や学校と密に連携を図りながら支援を行ったが最終的に事業所の利用終了に至ってしまったケースがある。関係機関の連携だけでは解決しきれない、不登校支援・居場所定着の難しさがある。

<児童発達支援>

- ・空き状況：平日は空きがなく、希望者には待機を依頼。土曜日は利用が少ない傾向にあるが、土曜日のみの単独受け入れは行っていない。見学は随時受付。契約者数は17名。
- ・支援の課題：健診後やこども園などから勧められて繋がるケースが多いが、年長になって相談されるケースも多く、定員に空きがなく利用に繋がらないこともある。

○ピース

- ・空き状況:定員10名で1日平均は13名前後、最大15名。高校生2名、中学生1名、小学生14名で小学3~5年生の利用児が多い。現在、定員に空きはなく、今年度中の利用終了予定者もないため、当面の間は新規の受け入れが難しい状況。
- ・支援内容:コミュニケーション能力の向上を目的として、集団療育、SST、スポーツや工作など。
- ・支援の課題:遠方への送迎を行っているため、送迎に時間を要したり、他校と下校時間が重なり、調整が難しい。家族が支援や介入を拒否・警戒されるケースにおいて、家庭との信頼関係を維持しつつ、適切な助言や指導を受け入れてもらうことが難しい。

○児童デイワンハート穴吹

- ・空き状況:定員10名。現在、放課後等デイサービス9名、児童発達支援1名利用しており、現在空きはない。
- ・支援内容:集団生活のルール習得や経験の積み重ねを促すため、見通しを持った予定活動を実施したり、子ども同士で意見を交わし合い協調性を育む話し合いの場を設けている。専門的な支援について、「ワンハート穴吹」には理学療法士を、「ワンハート鴨島」「ワンハート阿波」には作業療法士を配置。定期的に専門職会議を開催して支援内容の協議を重ねている。また、鴨島病院の言語聴覚士とも相談・連携を図り、全体で共有を行っている。
- ・支援の課題:保護者から学習面の相談が多く、宿題が課題になっている印象。事業所での様子を共有しながら細かな連携を図っている。

4. その他

○次回のこども部会について

- ・第2回こども部会

日時:8月21日(金)10時~ 場所未定

内容:当事者(発達が気になるこどもの親)の声を聴く研修会